

栗東市の被差別部落における教育実態調査プロジェクト

#教育
#実態調査
#差別



十里地区でのフィールドワーク

DATA

- 主な連携先・メンバー
栗東市教育委員会事務局人権教育課
- 活動地域
滋賀県栗東市十里地区
- 活動期間
2023 年度～継続中
- 活動資金
滋賀県栗東市／地域連携活動に対する補助事業

目的

2024 年度に栗東市内の地区住民に、^{しっかい} 悉皆で教育実態調査を実施する予定である。2023 年度は関係者に事前調査を実施し、次年度に実施する調査計画を作成することを目的とした。

活動内容

ゼミにおいて、部落差別問題の教科書を輪読するなどその概要を学んだうえで、被差別部落の子どもたちに関する生活・教育の課題についての先行研究を検討した。また、子どもたち・保護者・地域住民を対象に過去 4 回分の栗東市十里地区において実施されてきた教育実態調査データの提供を受け、その内容を検討し再分析を行い、学力やそれを下支えする生活習慣・進路意識・居住環境・部落差別に関する認識など、これまで明らかにされてきた課題を整理した。さらには現在の教育の課題を明らかにするための事前調査とし



「福祉と人権のまちづくり」の拠点施設である「ひだまりの家」にて

活動の成果

- ≫ 現地調査により、被差別部落の子どもたちを取り巻く教育課題を明らかにした。
- ≫ 次年度に実施する実態調査の柱として、部落差別と解放運動に対する認識を提言した。
- ≫ 学生たちが、被差別部落の子どもたちを取り巻く教育課題を学ぶことができた。

連携にいたる経緯

栗東市教育委員会より、内田に対して教育実態調査への参画の依頼があった。内田はこの調査をゼミのプロジェクトとして位置づけ、学生たちが被差別部落の子どもたちを取り巻く教育課題を現地で学び、その解決の一助となるような調査計画の立案を目指した。

て、部落解放運動関係者、子どもたちの保護者、栗東市立ひだまりの家をはじめとする十里地区の関連施設職員、子どもたちが通う保育園・幼稚園・小中学校の教員に対する聞き取り調査を実施した。そのほか、2023 年 10 月に開催された大宝西ふれあい解放文化祭に参加するなど、現地視察も複数回実施した。

これらの調査経験をもとに、部落差別と解放運動に関する認識を調査の柱とする 2024 年度に実施する教育実態調査の計画を検討した。

大宝西ふれあい解放文化祭に参加



「浸水のまち」から「親水のまち」へ住環境が改善された過程を学ぶ

今後の課題・目標・展開の可能性

- ≫ 2024 年度は悉皆調査を実施し、収集した調査データの分析を行う予定である。
- ≫ 調査結果をもとに、地域の教育力向上のための提言を行いたい。

連携先からの一言

これまでの取組みを検証し、部落差別の結果としての地域の実態を明らかにすることで次の支援が見えてきます。関係者会議等、様々な助言・ゼミ生との協働体験から、地域・保護者自身が何をすべきかを考え始めています。

(栗東市教育委員会事務局人権教育課)

社会学部 教授 内田 龍史 Uchida Ryushi



長年にわたり、部落差別問題の実態把握のための調査を実施してきた。被差別部落における教育課題がつかみにくくなっている現在、貴重な調査になると確信している。

